

少子・高齢化社会を支える未来の社会人へ



教育随想

岡崎税務署長 安田 照義 氏

わが国は世界に類を見ない速度で少子・高齢化の道を進んでいます。出生率は年々低下の傾向にあり、勤労世代は減っていきます。その一方で平均寿命は延び、社会保障費を中心に歳出の増加が見込まれます。

そこで、私たちは、そんな近い将来の日本を支えることとなる児童・生徒の皆さんへの租税教育が、特に必要であると考えています。

租税教育を行うために、岡崎税務署と愛知県、岡崎市、幸田・額田両町の税務関係機関及び教育関係機関並びに係民間団体とが協力して『租税教育推進協議会』を平成四年二月十四日に発足させました。以来、同協議会は、岡崎市及び額田郡の各学校に税務署職員や県市町の職員を講師として派遣し、「身近なところで税金がどのように使われているか」「税金がないと社会はどうなる



平成15年10月1日

10月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎税務署長 安田 照義氏	
この人に聞く	2
トリアスリート	
関根 明子氏	
羅 針 盤	2
常磐中学校長 金澤 強	
ふれあい	3
六ツ美北部小 坂元 薫	
城北中 柳 洋子	
特 集	4
扇子山を渡る鷹たち	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
公認50メートルプール完成 (昭和25年)	
この本を	8



のか」「必要不可欠な税金をごまかすようなことをしてはいけない」ということをビデオやイラストなどにより学習してもらっています。

昨年度は、小学校から高校までそれぞれの最上級生を対象に合計で四十九校、一〇六のクラスで租税教室を開催いたしました。

また、関係民間団体などとも協力し、小学生から高校生まで、税に関する作文・習字・ポスターを募集しています。同じく昨年度七十四校、九七〇作品の応募がありました。

これだけ、皆さんに関心を持って

いただいているかと思うと大変心強く思います。

ここで、平成十四年度の「税に関する高校生の作文」に全国で応募いただいた一二、四〇九編の中から、国税庁長官賞を受賞した作品の一文を紹介いたします。

「『税金は私からあなたへの『優しさの贈り物』こんな思いで税金を納付してみても』

このような気持ちを持つ学生の方をたくさん育てるためにも、租税教育の重要性を感じています。

(やすだ てるよし)

この人に聞く

ふるさとシリーズ



アテネをめざして

トライアスリート

関根 明子 氏

二〇〇〇年シドニーオリンピックより正式競技となったトライアスロン。そのシドニーオリンピックに出場し、アテネをめざす関根さんにお話を伺った。

「岡崎は環境がいいです。愛知県には、実業団もあり、上のレベルでやっている方も多いですよ。」

より良い練習環境を求めて東京から岡崎に越してきたそうである。

中学までは水泳、高校では陸上の長距離選手。その後、実業団を経てトライアスロンと出会う。

トライアスロンと出会ったきっかけを次のように話された。

「主人が勤めていたスポーツクラブに、現在のトライアスロン連盟の会長さんが来られたんです。シドニーからトライアスロンが正式に競技になるので人材を探している、というので紹介してもらったんです。出会いは大切ですね。やってみたいかと言われなければ、やっていませんでしたから。」

トライアスロンは、スイム一・五キロ、バイク四十キロ、ラン十キロと長丁場である。そんなトライアスロンの魅力について関根さんは、「最後まであきらめなければ、何とかなるところかな。」

と言葉をかみ締めながら話された。六月に行われたワールドカップ蒲郡大会でも、その言葉通り最後のランで粘りの走りを見せ、日本人最高の三位に入賞されている。



しかし、ここまで決して順風満帆だったわけではない。

「気力が続かなくて、去年やめようと思ったんです。自分の殻に閉じこもる弱いところがあった。でも、このままだとトライアスロンじゃなくても、きつとこれから生きていく中で同じ壁にぶつかるので、どうせぶつかるならトライアスロンで乗り越えようと思ったんです。次のアテネに関しては、自分の殻を打ち破って何かを得られればいいなと思います。通過点ですね。」

気持ちも新たにトライアスロンに打ち込む気概を感じた言葉であった。最後に、子供たちへのメッセージをお聞きした。

「遊びにしろ勉強にしろ、もつといろいろ挑戦して、自分に合ったものを楽しみながら見つけてほしいですね。ただ漠然とでも生きてはいけません。いろんな可能性を秘めているので、もつとそれを発見してほしいです。」

水泳、陸上、そしてトライアスロンと挑戦を続けてきた関根さんからの熱いエールのように聞こえた。

氏名 せきね あきこ
生年月日 昭和五十年八月三十日
住所 洞町五位原



目標を高く掲げて

常磐中学校長

金澤

強

教育改革二年目の四月八日、悲願であった校舎全面改築の完工式を挙げて新たな学校づくりが始まった。

- ・基礎・基本の定着を図る
- ・道徳や体験活動で心を育てる
- ・「生き方発見チャレンジ活動」で総合的な学習を推進する
- ・不登校生徒をなしにする

この重点目標を達成するために、教師と保護者・地域が連携して取り組み、一学期を終えた。

卒業式でA男が「学年代表生徒反省と抱負」で次のように述べた。

少し自信をつけた僕は授業も積極的にと思い、先生の話を真剣に聞いてたくさん挙手をするように心がけました。すると不思議なもので、次第に授業にやる気が出て楽しくなってきました。数学もわかるようになってきました。(抜粋)

A男の成長

六ツ美北部小 坂元 薫



三年前のA男は友達付き合いや感情のコントロールがちよつと苦手な子だった。だが、六年生となり再会した彼は、すっかり落ち着き立派に成長していた。一年生との交流活動にも張り切って取り組んでいた。

ところが、ある日事件がおきた。放課の時間に一緒に遊んでいたとき、一年生がふざけてたいたいてきたのに腹を立て、たたき返してしまつたのである。涙を流して謝るA男。だが、今後も同じようなことがあつたとしても、「我慢できるかどうか分からぬ」と、力なく言つた。

私は今回のことは残念な反面、A男が成長できるチャンスだと考えた。そこで、じっくり彼と話し合つた。「六年生として、自覚を持つて行

動しよう。これからも、優しさを大切にして交流活動に参加しよう。」と話し、約束した。

一か月後、交流活動で一年生と放課に遊ぶ活動をしているチームが、「人手が足りないから手伝つて。」と呼びかけたとき、快く応じたのはA男だった。

当日、彼の周りには一年生が群がっていた。あの事件後も一緒に遊んだりお手伝いをしたりすることを続けたA男は、すっかり人気者になつていたのである。

一年生とびつたり息を合わせて動くA男を見て、確かな成長を感じた。



生徒の一言が

城北中 柳 洋子

食品と栄養素の授業をしていると、眉間に皺をよせ、難しそうな顔をしている小柄なA男の姿が目に入った。昨年までのA男は、授業開始後十分もたつと集中力が途切れてしまう生徒であった。私は、お腹でも痛いのかと思ひ、「大丈夫。体調が悪いの」と声をかけた。すると、切なそうな顔をして、「先生、分からん」とつ



ぶやいた。A男のその一言が授業を見直すきっかけとなつた。

そこで、生徒一人一人の体験での裏付けを大切に授業展開を心がけるようにした。それにつれて、A男の授業に取り組む姿にも変化が表れてきた。「なんで」「どうして」と、自分の疑問や困つたことを自然に口にするようになってきた。分からなかつたことを友達に教わつたり、「一緒に調べよう」と声をかけられ取り組んだりするうちに、A男は食品の性質にこだわりを強く持つようになった。

追究学習を始めたA男は、授業時間にとらわれないで、加熱による食品の変化や味の比較分析について、友達とともに味わつたり、感想のやりとりをしたりした。

A男は次第に友達に認められるようになり、いつの間にか、技術・家庭科の授業の中で中心となって活躍するようになっていた。

このような生徒の前向きな姿が増えるのを期待して、九教科『授業アンケート』を実施した。その結果、

ア 楽しい、意欲的にできた、

イ 普通……………47%

ウ 楽しくない、消極的、

理解できない……………13%

であった。アが半数に達していない。教師のさらなる力量向上で、授業の工夫を目指したい。

このような傾向は『みんなでの学校にするためのアンケート』にも見られる。「あなたは病気ではないのに、学校に行きたくないと思つたことはありますか」の問いに対して、

ア ほとんどない……………38%

イ 時々ある……………41%

ウ よくある……………21%

と答え、「朝起きられない」「たらい・めんどう・なんとなく」「学校や勉強・先生が嫌い」の理由があげられた。『授業アンケート』でイ・ウと答えた60%の生徒と合わせ、何らかのストレスをもっている生徒は少なくない。現在、生徒理解のために教育相談を推進している。

日々の実践の評価、改善を通して、本校教育を進展させたい。

扇子山を渡る鷹たち

▲サシバ 扇子山上空を最も多く渡っていく。

鷹の種類は、数の最も多いサシバをはじめ、ハチクマ、ノスリ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、ミサゴ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チヨウゲンボウ、トビの十一種類。この場所での特徴は、伊良湖に比べてハチクマが多いことである。その上、岡崎市に生息するほとんどの鷹が見られるよさがあり、子供たちは毎年楽しみにしている。

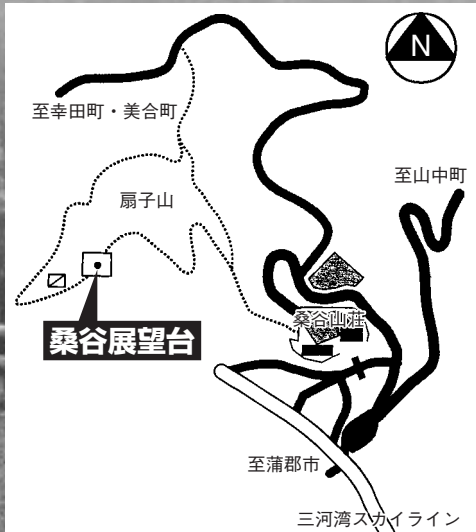
今年も、鳥の図鑑を片手に真剣に双眼鏡をのぞく子供の姿がある。

伊良湖岬での鷹の渡りは、秋の風物詩となっているが、岡崎市でも見られることを知る人は少ない。場所は、桑谷山荘から五〇〇メートルほど歩いた先の展望台。快晴の日には、市内はもとより、鈴鹿山脈、伊吹山までが一望できる。また、振り返れば、蒲郡市だけでなく、伊良湖岬、さらには遠州灘まで眺望がきく。そのため、野鳥ファンにとっては格別の場所となっている。

扇子山での鷹の渡りは、九月中旬から十月上旬。だが、今年は八月二十三日が、初の渡りであった。岡崎野鳥の会からの報告によると、昨年、扇子山の上空を南へ渡っていった鷹の総数は一、五四二羽。一目に一〇〇羽程度飛ぶ日もある。昨年の九月二十六日には、一九〇羽も渡っていったそうである。

現在、市内の小中学校で、二十二校が授業等を通して野鳥の観察をしている。また、野鳥にかかわるクラブ（委員会）として活動している学校が七校ある。美合小と山中小は、この展望台で鷹などを観察している。

伊良湖岬での鷹の渡りは、秋の風物詩となっているが、岡崎市でも見られることを知る人は少ない。場所は、桑谷山荘から五〇〇メートルほど歩いた先の展望台。快晴の日には、市内はもとより、鈴鹿山脈、伊吹山までが一望できる。また、振り返れば、蒲郡市だけでなく、伊良湖岬、さらには遠州灘まで眺望がきく。そのため、野鳥ファンにとっては格別の場所となっている。



▲桑谷展望園地内にある展望台



▲オオタカ

鷹の中では中型の大きさである。林の中を自在にすばやく飛んで獲物を仕留める。



▲サシバ (幼鳥)

幼鳥は胸部が縦のしま模様であるが、成鳥になると横のしま模様になる。



▲ノスリ (幼鳥)

尾羽には鷹特有のしま模様がなく、翼の中央前部に黒いはん点がある。



▲ミサゴ

扇子山に1日1度はやってくる。翼を広げると1m70cmはある。



▲ハイタカ (幼鳥)

成鳥になると腹の部分が白くなる。



▲ハチクマ (幼鳥)

扇子山上空を渡るハチクマの種類は多いが、この暗色型(黒色)は珍しい。



▲展望台から双眼鏡をのぞく子供たち (美合小・野鳥クラブ)

資料提供：岡崎野鳥の会
鳥写真提供：三浦 重光氏

扇子山を渡った鷹の数
平成14年度

サシバ	671羽
ノスリ	303羽
ツミ	247羽
ハチクマ	219羽
その他	102羽
合計	1542羽

市内小学校の野鳥にかかわるクラブ (委員会)

井田小学校	野鳥部
上地小学校	自然・野鳥観察クラブ
生平小学校	愛鳥委員会
亀美丘小学校	バードウォッチングクラブ
美合小学校	野鳥クラブ
矢作東小学校	理科クラブ
山中小学校	バードウォッチングクラブ



● 少人数指導授業の充実

平成十四年度より、少人数指導授業が導入され、今年度二年目を迎えた。各学校では、昨年度の反省を生かし、より効果的な少人数指導を実施するために、単純に学級を分割する方法から、児童生徒の希望による習熟度別に分割する方法で授業の充実を図る取組が増えてきた。

北野小学校では、二年生以上の算数の授業で、単元のはじめにレディネステストを行い、児童は、そのでき具合とアンケートから学びたい学習集団を選択する。担任教師は、児童の希望を生かしながら、各学級をおおむね一対二になるように「少人数コース」と「多人数コース」に分割する。前者は基礎をしっかりと学習し



たい児童が入り、少ない人数できめ細かく十分な学び合い活動ができるよう配慮している。後者は多様な考え方を練り合いたい児童が入り、問題解決や発展的な学習に取り組んでいる。いずれも単元の終わりに自己評価や点検問題を行い、「算数が楽しい」「分かるようになってうれしい」との声もあり、成果が見られる。また、多くの中学校では、

英語学習において、生徒の希望により、基礎と発展コースに分割している。基礎コースでは、一人一人のよさや学習状況を確実に把握しながら、教科書の音読、合理的な文法指導に特に心がけている。「すらすら読めるようになり自信がついた」「先生が文法を丁寧に教えてくれるので文を覚えやすい」などの感想も

見られ、生徒個々の英語学習の理解度・満足度が高くなってきている。

発展コースでは、音読や文法を確認した後で、教科書の内容を発展させた会話練習中心の授業が行われる。教科書の文に二文以上の会話を付け加えて臨場感を出したり、テーマに沿って自分の考えをまとめ、相手にメッセージを伝えたりする活動にも取り組んでいる。「自分の考えを伝えるのは難しいけれども楽しい」「自分の知らない表現が身につく、楽しく学べる」など、コミュニケーションに意欲的な態度が育ちつつあることを感じている。



▲ 少人数指導授業

● 少年自然の家だより

○初夏の虫ウオッチング

六月二十一日、本年度新たに企画した「初夏の虫ウオッチング」を開催した。この日は幼児から小学生までのたくさんの子供とその家族が参加した。

鈴木栄二校長を講師に迎え、トンボを中心に、この季節に見られる様々な昆虫の話聞き、実際に屋外で昆虫の採集、観察を行った。

この日、観察できたのは岡崎市では少年自然の家付近でしか見ることのできないゲンバイトンボやモノサシトンボ、ムラサキシジミやヤマトシジミなどで、一生懸命にトンボを捕まえる父親の姿もあり、大人も童心に帰り、楽しいひとときを過ごした。

○ニューポートビーチ市からのお客様

岡崎市の姉妹親善都市ニューポートビーチ市から中学生を含む六名が、七月十一日、本所を訪問した。岡崎の中学生と同様に落ち葉スキーやカ

ヌーに打ち込む姿が印象的であった。



▲ カヌーを楽しむニューポートビーチ市の中学生

○すぶち「水の生き物観察会」

自然に親しみながら、男川の水生生物に関心をもってもらうと、八月二十日に、「第二回すぶち水の生き物観察会」を開催した。たも網を手にし、小学四年生から六年生までの児童二十八名が集まった。

自然体験の森の永井貞先生、本所の古田忠久先生を講師に、水辺の生き物に関する話を聞いた。前日からの雨で川が増水し、採集は中止となったが、午前中は川遊び、午後はカヌーをして夏の日を楽しんだ。

表彰

ちゅうでん教育大賞

甲山中学校

「生徒が誇りに思う学校づくり」
— 学校文化再生二年の歩み —

ちゅうでん教育振興助成

山中小学校

「自主的に学び、見通しをも
つて活動する児童の育成」

第二十七回岡崎市小中学生
統計グラフコンクール

市長賞

矢作東小 六年 森下 藍

竜海中 三年 植田 千紘

北中 一年 谷口・稲葉・中嶋

市議会議長賞

竜美丘小 五年 鈴木美菜子

新香山中 二年 前川 浩隆

山中小 五年 小林・内田

教育委員会賞

矢作東小 四年 野澤 珠梨

竜海中 一年 植田 美咲
竜海中 三年 竹内 愛理

● 学校賞 竜美丘小学校
竜海中学校

● 優秀賞

六ッ美北中 東館 健太

北中 尾崎 一樹

六ッ美中 磯村 優作

甲山中 杉浦 里奈

● 第五回岡崎市中学生英語スピーチコンテスト
入賞（西三大会へ出場）

南中 三年 玉木ゆず子

新香山中 三年 林 知輝

附属中 二年 原 桜子

六ッ美北中 二年 林 知世

南中 二年 エヘンシニア

河合中 三年 遠藤紫英良

城北中 三年 鍋谷 峻矢

甲山中 三年 ジャスティス淳平

竜海中 三年 柵木 祐介

竜南中 二年 開出 智美

◆全国中学校体育大会出場者

● 陸上競技

男子100M

矢作北中

男子共通800M

美川中

女子1500M

六ッ美中

女子共通走り高跳び

東海中

水泳競技

男子400MメドレーR

竜海中

男子400MメドレーR

竜海中

女子400MメドレーR

城北中

女子400MメドレーR

城北中

女子400MメドレーR

城北中

女子100M バタフライ

城北中 岩下なつみ

男子200M 個人メドレー

岩津中 筒井 和也

女子200M 自由形

城北中 岩下なつみ

男子400M 個人メドレー

岩津中 筒井 和也

相撲

美川中 青山 貴昭

バドミントン

城北中 今村 昌平

バレーボール

矢作北中

土田・松井・清東・石川・山
中・永尾・岩附・萩原・倉
島・本井・加賀・福・平松

◆東海吹奏楽コンクール

中学合同バンドの部 優秀賞

新香山中・矢作北中

◆愛知県合唱コンクール

同声の部 銀賞 南 中

同声の部 銅賞 矢作北中

同声の部 奨励賞 六ッ美北中

◆NHK全国音楽コンクール(県コンクール)

小学校の部 金賞 矢作南小

中学校の部 銅賞 南 中

◆中部日本吹奏楽コンクール県大会

愛知県代表 新香山中

◆学校花壇設計図コンクール

県知事賞 六ッ美中部小

◆日本水泳連盟表彰

三島小

●新しいALT着任

七月に任期を終えたALTのベッキー、アンバー、ヘレン先生の代わりに、新しく三名の先生が着任した。

●マリアン トウース

(アメリカ出身)

●ロジャー ハフ

(アメリカ出身)

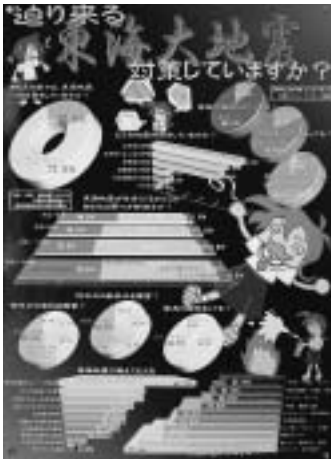
●オマール ピーナ

(メキシコ出身)

継続のパール先生やデイビッド先生同様、活躍を期待する。なお、三名とも日本語を少し話すことができるので、小学校からも積極的に要請してほしい。



▲統計グラフコンクール
(市長賞：矢作東小6年 森下 藍)



▲統計グラフコンクール
(市長賞：北中1年 谷口、稲葉、中嶋)



オマール

ロジャー

マリアン

・カ
ツ
ト
福
岡
小
南
野
薫



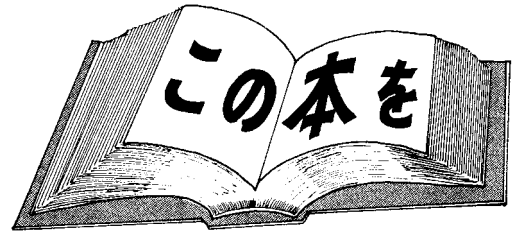
写真提供 葵中学校

公認五十メートルプール完成 (昭和二十五年)



昭和二十五年、生徒たちの熱い思いにこたえようと、当時の鈴木校長はじめ、多くの人々の並々ならぬ努力の末、公認五十メートルプールが完成した。もちろん建設資金があるわけではなく、生徒たちが街行く人々に募金を呼びかけ、資金を集めた。また、建設機械が使えず、生徒たちも汗水流し、手作業でプールを掘ったのである。こうして、公認五十メートルプール完成という偉大な事業を成し遂げた。

以来、このプールでは、市の大会や西三大会が行われ、多くの名選手を輩出している。



- * 発想名人 斎藤 孝 文藝春秋 ￥1000
- * ふたり 鎌形 睦美 KTC中央出版 ￥1300
- * 4TEEN 石田 衣良 新潮社 ￥1400
- * 不良少年の夢 義家 弘介 光文社 ￥1400
- * 文章術の千本ノック 林 望 小学館 ￥1400

文章力を磨くために大変参考になる本である。第一部では、文章を書く上での配慮事項が具体的にまとめられており、第二部では、学生が書いた文を実際に著者が添削している。コメントは辛口であるが、元の文と対比されているため、文章がいかにレベルアップしたか実感として感じられる。「文章を書くことは、1つのARTであって、そこには法則があり、技術があり、美学がある。ただ、漫然と書いては決して人の心には届かない。」著者の言葉が素直に納得できる。

お御輿みこしを担ぐ手に自然と力が入る。「わっしょい、わっしょい」の掛け声も勇ましい子供たち。その横で得意気に笛や太鼓を鳴らしている子もいる。「祭」の文字を染め抜いた法被の列が町中を練り歩く。思わず自分の子供時代を思い出し、ノスタルジックな気分になる。

シラカシの木の下に、どんぐりの実が転がっている。コナラの木のもの比べると、同じどんぐりでも形や大きさが違っておもしろい。

実りの秋。普段目を向けることの少ない自然と、少し向き合ってみるのもよい季節である。

シ オ ス ア

荒れが鎮静化に向ったのだろうか。全国の校内暴力件数が二年連続して減少した。このことについて、文科省は、「学校などの取組が一定の成果を表した」としている。しかし、心を痛めるような凶悪犯罪の低年齢化が進んでいる。子供とのパイプを今一度見直したい。

鈴鹿山脈、渥美半島までが視界に入る扇子山の展望台。昨年は、十一種類、一、五〇〇羽以上の鷹がこの地を通過した。素晴らしい景観を背景に、大空に舞う精悍な鷹の姿は、訪れた人を魅了する。初めて出会う人との間でも、旧知のごとく勇姿をめぐって話の輪が広がる。